

調査結果の概要

調査対象者 749人、有効回答数 746人（うち女性252人）（回答率99.6%）

※ 以下の各問の欄の「N」は、それぞれの問に対する有効回答数

「法文系の職員」及び「理工・農学系等の職員」の試験区分は以下のとおり

「法文系の職員」（回答数394人、うち女性141人）

・総合職試験：「行政」「政治・国際」「法律」「経済」「人間科学」「教養」「法務」

・総合職試験以外の試験：「事務」「事務系」

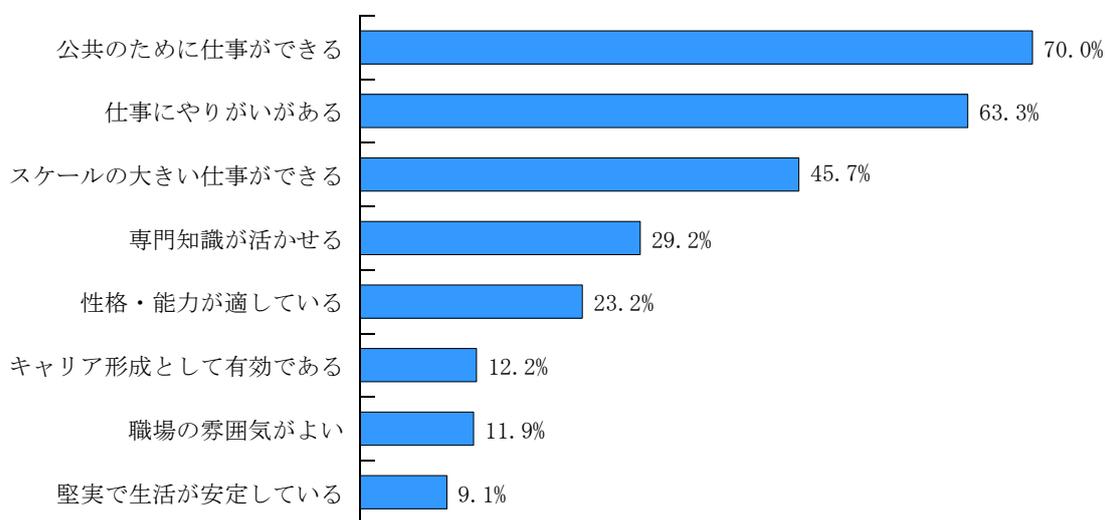
「理工・農学系等の職員」（回答数352人、うち女性111人）

・総合職試験：「工学」「数理学・物理・地球科学」「化学・生物・薬学」「農業科学・水産」「農業農村工学」「森林・自然環境」

・総合職試験以外の試験：「技術」「技術系」等

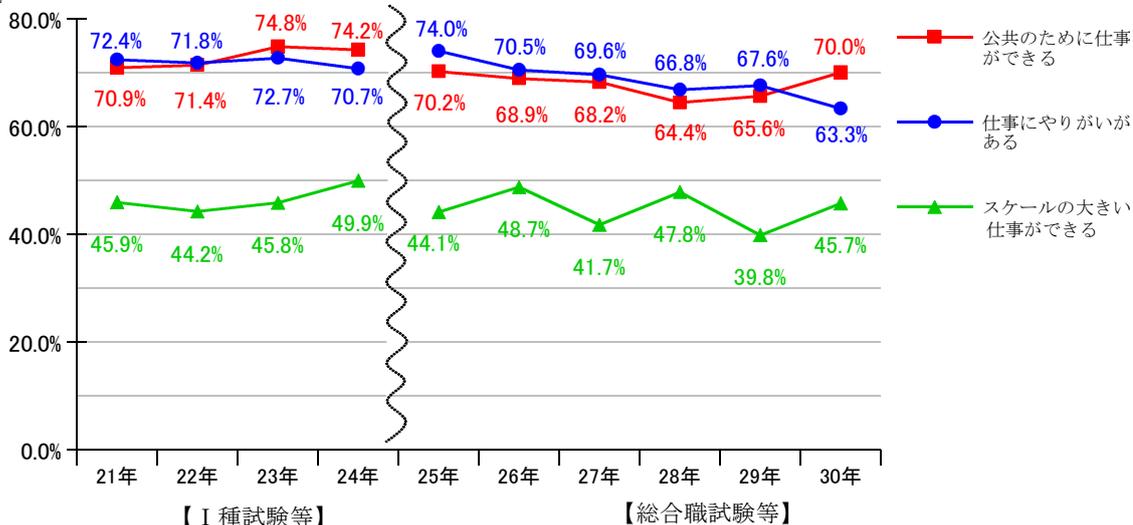
問1 国家公務員になろうとした主な理由は何ですか。（三つ選択）

(N=746)

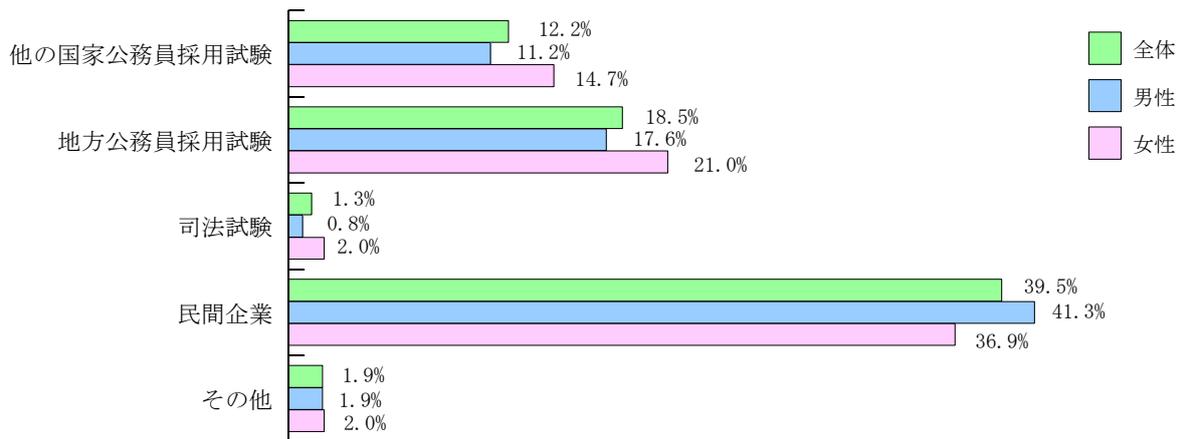


「公共のために仕事ができる」、「仕事にやりがいがある」、「スケールの大きい仕事ができる」と回答した者が上位3つを占めています。特に「公共のために仕事ができる」の理由は、例年、約7割の者が挙げています。

[参考]

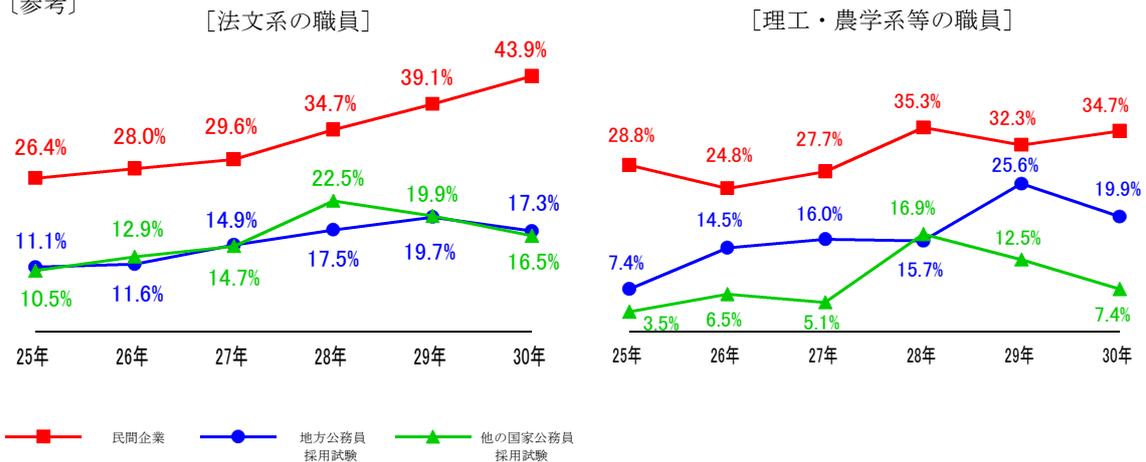


問2 採用された試験以外で、合格または内定したものはありますか。(複数回答)



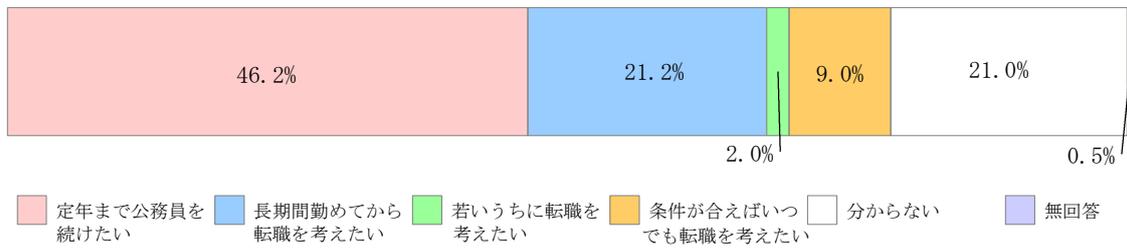
全体では、「民間企業」が39.5%、「地方公務員採用試験」が18.5%、「他の国家公務員採用試験」が12.2%となっており、男性、女性ともに「民間企業」が高くなっています。特に法文系は「民間企業」が5年前に比べて17.5ポイント増加しています。

[参考]

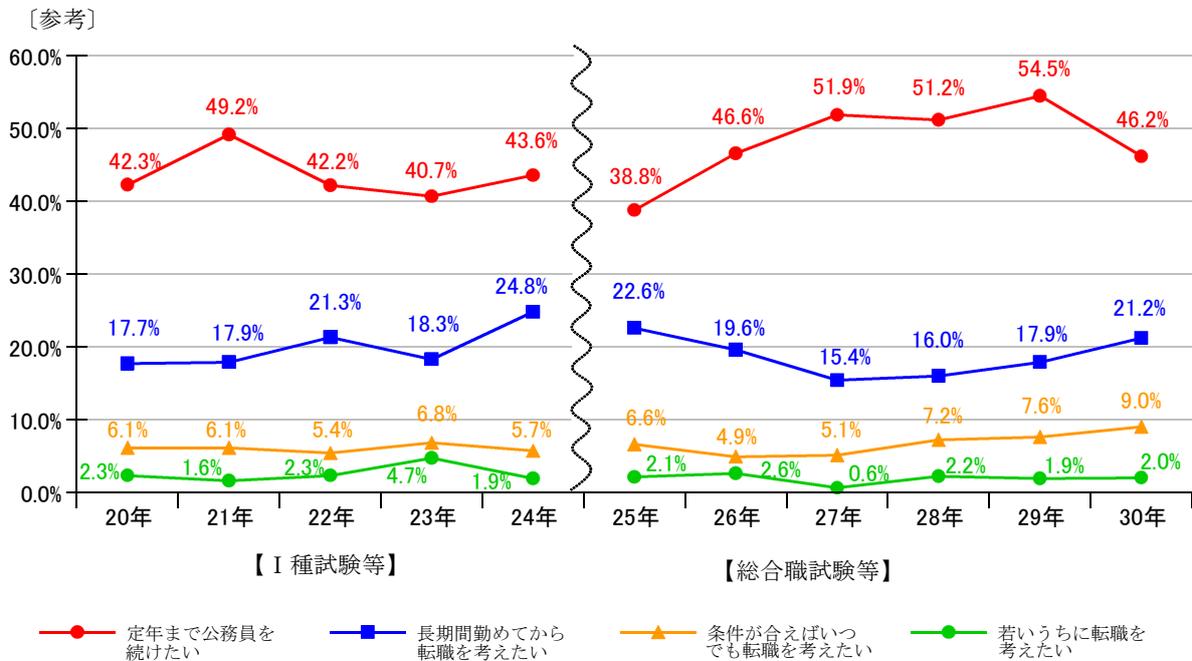


問3 国家公務員としていつまで働きたいと思いますか。(一つ選択)

(N=746)

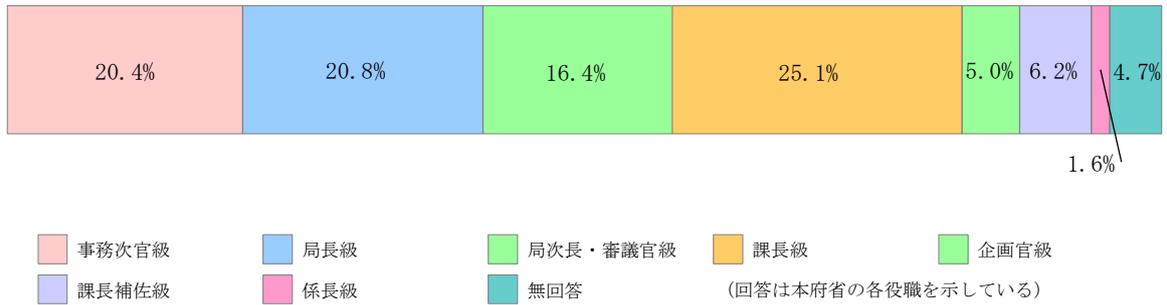


「定年まで公務員を続けたい」が46.2%となって昨年より8.3ポイント減少しています。一方、「長期間勤めてから転職を考えたい」が21.2%、「若いうちに転職を考えたい」が2.0%、「条件が合えばいつでも転職を考えたい」が9.0%となっており、合わせると3割の者が転職を考えていると回答しています。



問4 将来どこまで昇進したいと思いますか。（一つ選択）

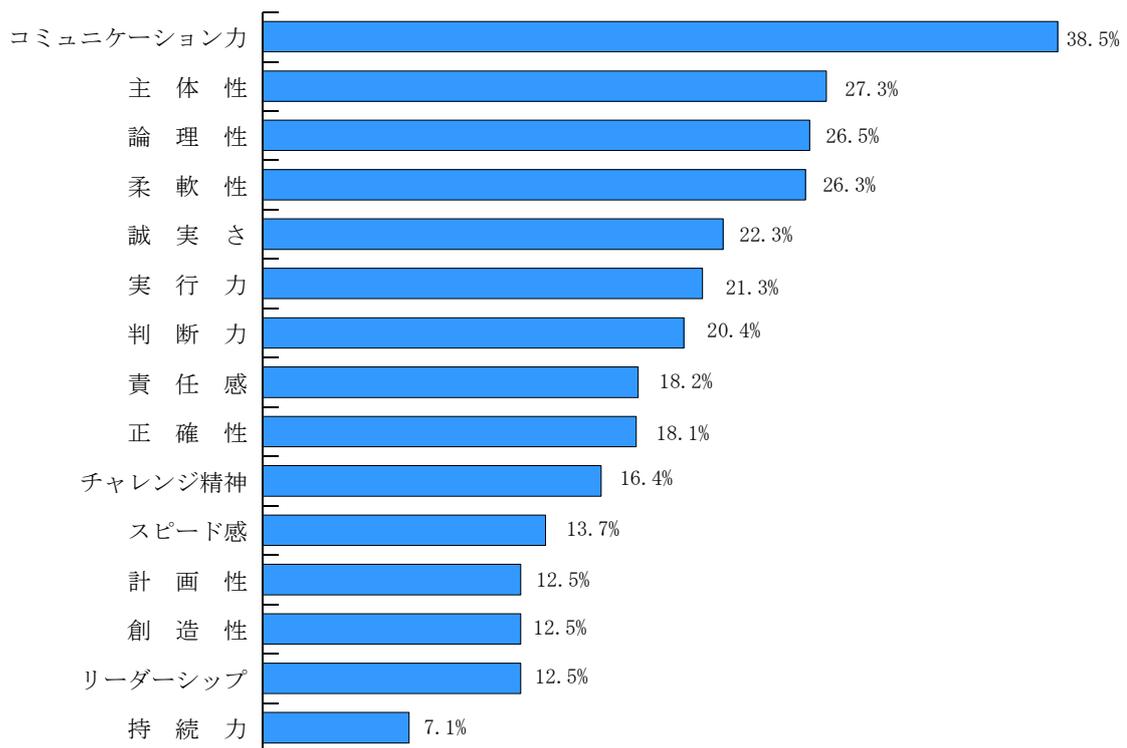
(N=746)



「事務次官級」が20.4%、「本府省の局長級」が20.8%、「本府省の課長級」が25.1%となっており、本府省の局次長・審議官級以上に昇進したい者が約6割となっています。

問5 どのような資質・能力を重視して仕事をしていきたいですか。（三つ選択）

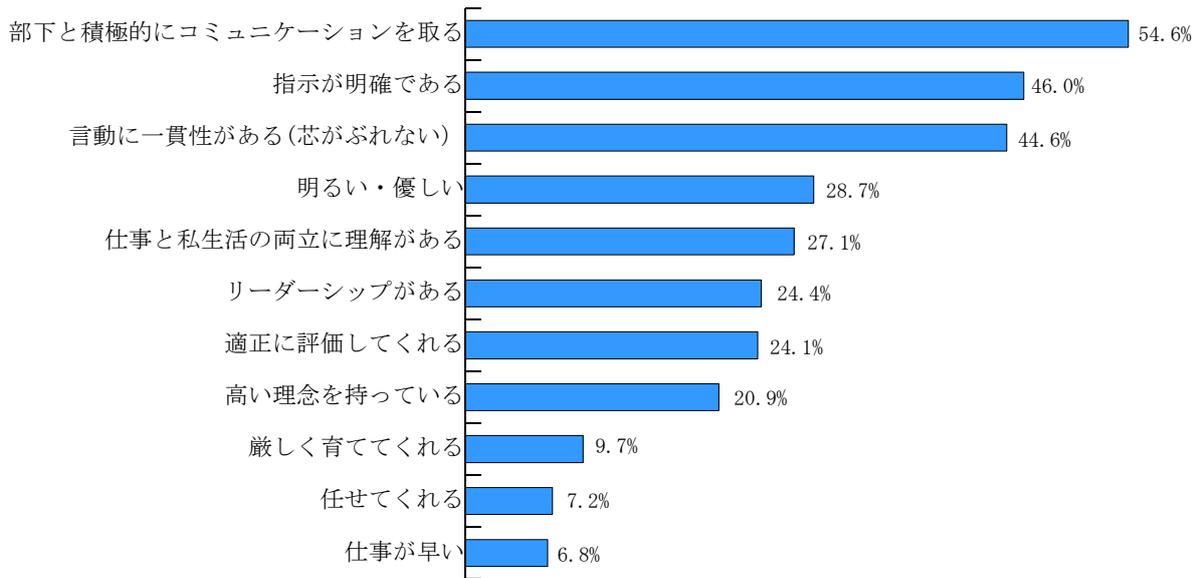
(N=746)



全体では「コミュニケーション力」が38.5%と高く、「主体性」「論理性」「柔軟性」についても約3割の者が挙げています。職場で上司や同僚と仕事をしていく上で、また、政策立案や政策調整をしていく上で必要と見込まれる能力が上位に挙がっています。

問6 どのようなタイプの上司の下で仕事がしたいですか。（三つ選択）

(N=746)

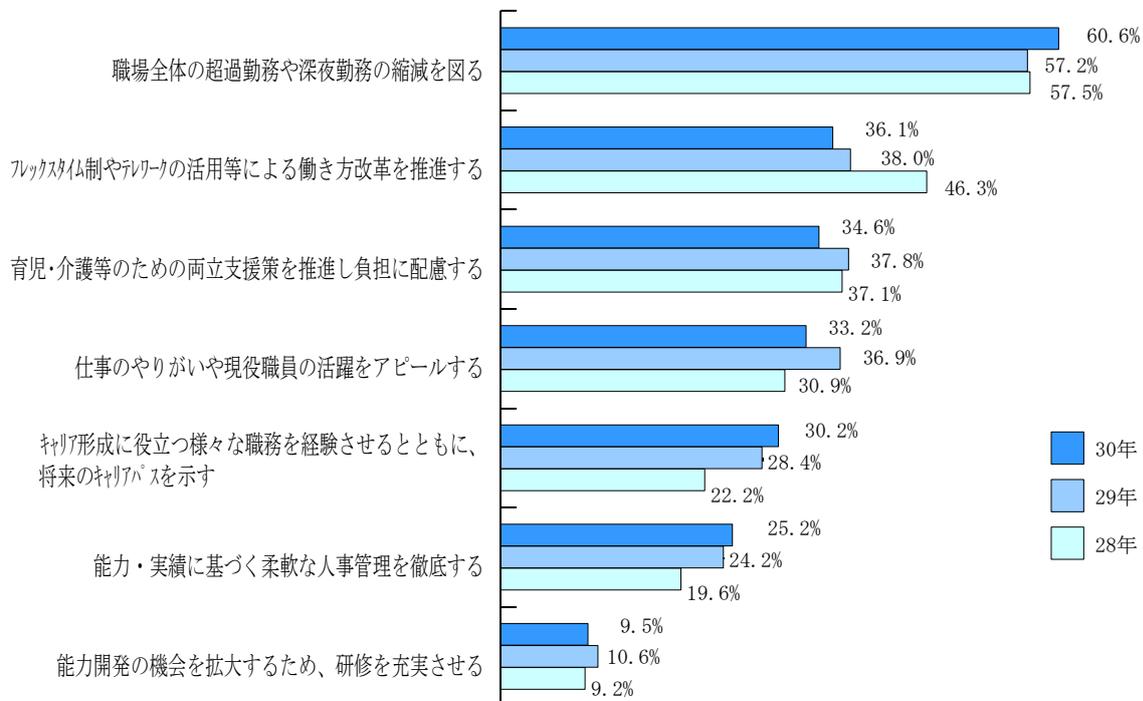


全体では「部下と積極的にコミュニケーションを取る」タイプの上司が54.6%と高く、「指示が明確である」「言動に一貫性がある(芯がぶれない)」についても、4割を超える者が挙げています。一方、「厳しく育ててくれる」は9.7%と低くなっています。

問5の結果と合わせてみると、自らもコミュニケーション力を高め、上司とも意思疎通を図って、的確な指示の下に仕事を進めていくことを望んでいることがうかがえます。

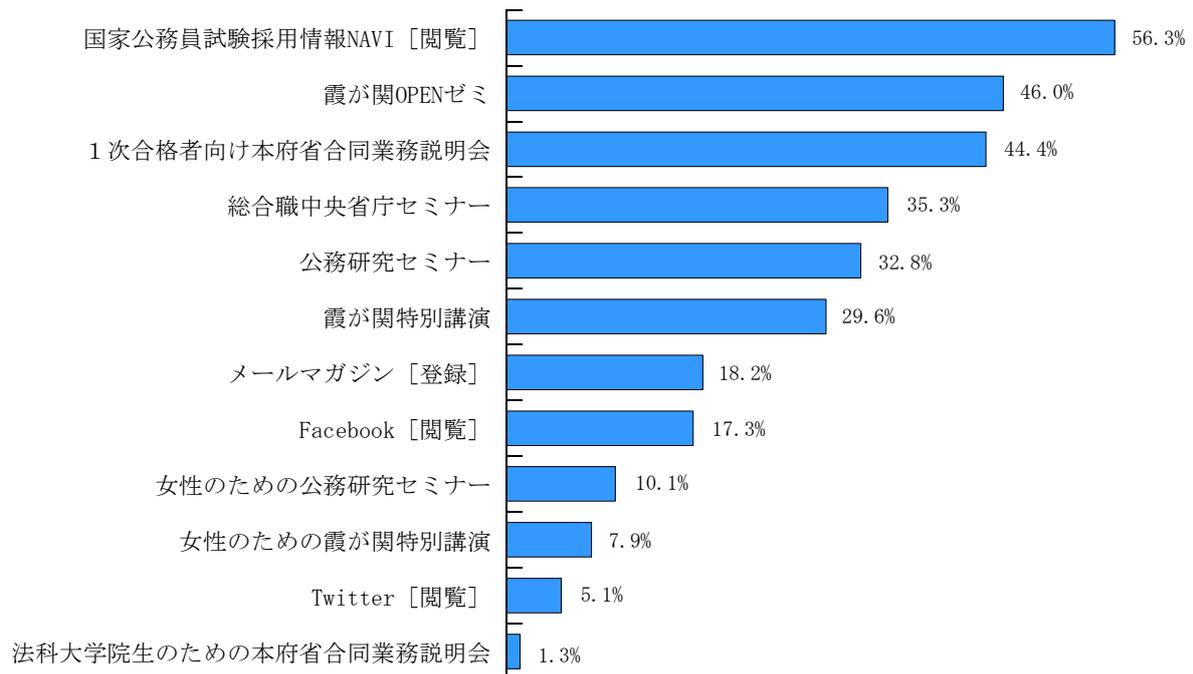
問7 どのような取組をより進めると、公務の魅力が向上し、多様な有為の人材の獲得につながるとお考えですか。（複数回答）

(N=746)

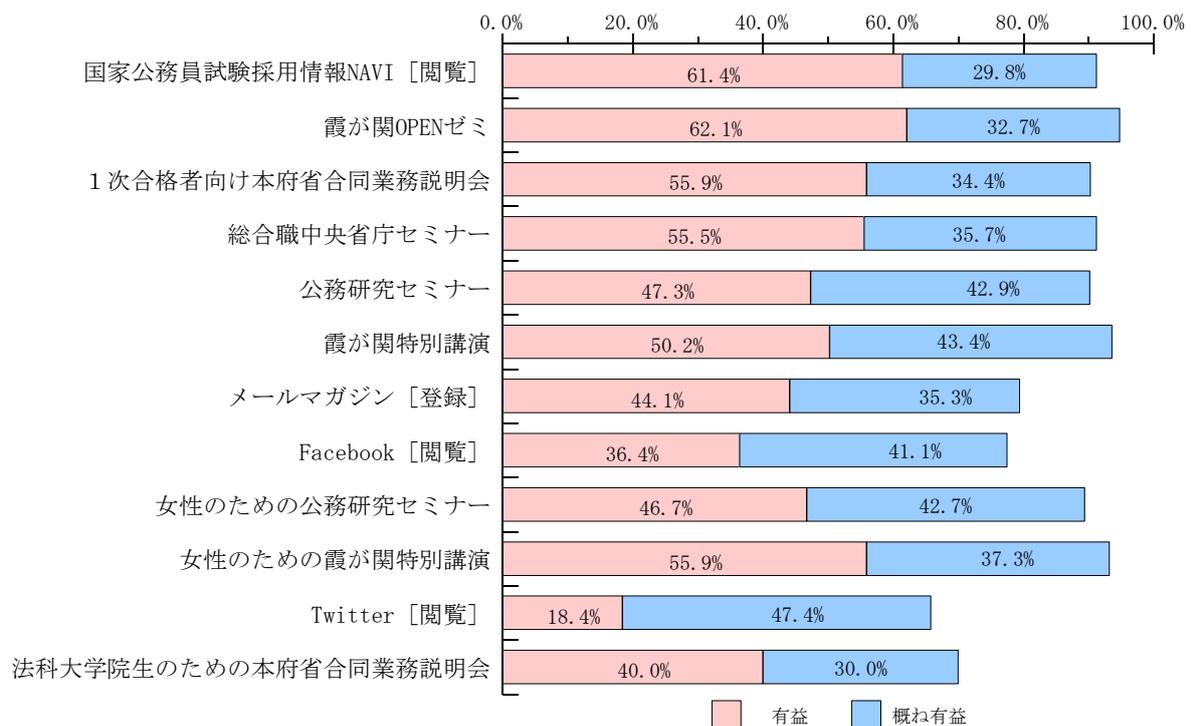


「職場全体の超過勤務や深夜勤務の縮減を図る」が60.6%と最も高くなっています。また、「キャリア形成に役立つ様々な職務を経験させるとともに、将来のキャリアパスを示す」が増えており、キャリア形成支援に対する関心の高さがうかがわれます。

問8 人事院のイベント等で参加等したものはありますか。参加等してどのように感じましたか。(複数回答) (N=746)



人事院では、各府省と連携しながら、積極的な人材確保・啓発活動を展開しています。霞が関OPENゼミ、1次試験合格者対象の本府省合同業務説明会には新規採用職員の2人に1人が参加をし、参加者の9割以上が有益・概ね有益だと感じています。いずれかのイベント等に参加したことがある者は約8割で、平均すると三つ以上のイベント等に参加しています。



人材確保施策の概要(人事院)

※ 実績は平成29年度

【啓発活動】

霞が関特別講演

公共政策大学院等と連携して、各府省の第一線で活躍する企画官等が、重要な政策課題をテーマとして連続講演を実施。東京大、京都大、一橋大のほか、北海道大、東北大、名古屋大、岡山大、九州大、早稲田大、同志社大で開催。

- ・前期(4～6月) 参加者数 延べ約1,900人
- ・後期(9～12月) 参加者数 延べ約1,900人



公務研究セミナー



本府省に勤務する職員による公務の仕事の魅力や勤務実態等の説明を通じて、公務に関心を持ってもらうことを目的として実施。

- ・公務研究セミナー 参加者数 約4,900人
- ・公務研究セミナーin霞が関 参加者数 延べ約3,300人

女性のための霞が関特別講演



主に女性の公務への動機付けを行うことを目的として、各府省の女性行政官が女性の立場から公務の魅力等を伝えながら、重要な政策課題について講演。

- ・参加者数 延べ約300人

女性のための公務研究セミナー等

国家公務員の仕事や各府省の業務概要、仕事のやりがい、ワーク・ライフ・バランスへの取組状況等を伝えることにより、より多くの女性に公務への関心を高めてもらうことを目的として実施。

- ・参加者数 約1,500人



一般職官庁業務(管区機関等)説明会

各府省の管区機関等の業務を中心に、より現場に近い仕事の魅力を説明。

- ・参加者数 約3,500人

大学等での就職ガイダンス

大学や大学院に赴き、国家公務員の仕事や試験制度等を説明。

- ・1大学院、102大学、2工業高等専門学校で119回実施 参加者数 約5,500人

霞が関(公共政策・法科)大学院生インターンシップ

各府省の実際の業務の体験を通じて、行政課題の研究に協力するとともに、公務理解に資することを目的として実施。7月～9月に実習。

- ・13大学院55人の学生が20府省で実習。

【人材確保活動】

霞が関OPENゼミ等



中央省庁における職場体験、若手職員との意見交換等を通じて、公務への関心を高めてもらうことを目的として、国家公務員を志望する者を対象に3月に実施。

- ・霞が関OPENゼミ 参加者数 延べ約7,700人
- ・地方でのOPENゼミ 参加者数 延べ約15,000人

総合職中央省庁セミナー等

総合職試験・一般職試験の志望者を対象として3月に開催。各府省が公務の魅力や各府省の業務内容を説明。

- ・総合職試験志望者対象 参加者数 約1,500人
- ・一般職試験志望者対象 参加者数 約5,400人



法科大学院生対象業務説明会



法科大学院生を対象として開催。ガイダンスに続き、各府省が公務の魅力や各府省の業務内容を説明。

- ・参加者数約40人